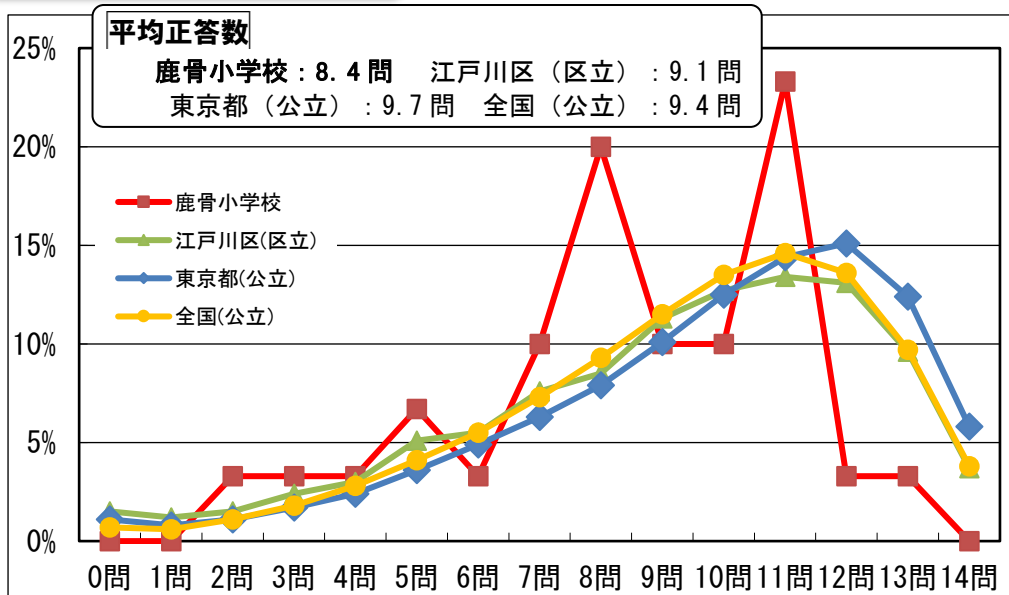


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 鹿骨小学校

正答数分布



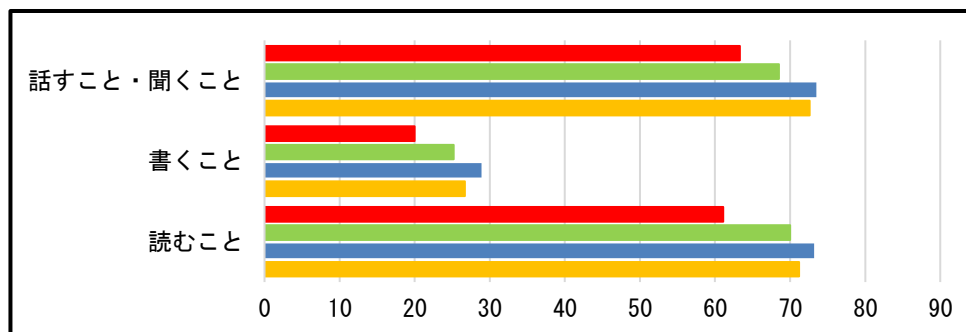
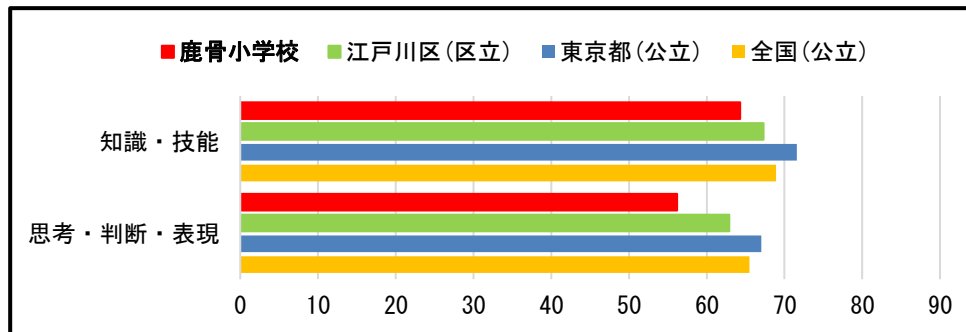
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← → 下位

国語	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
鹿骨小学校	6.7	33.3	30	30
江戸川区（区立）	26.4	26.1	19.8	27.7
東京都（公立）	33.3	26.9	18.0	21.8
全国（公立）	27.1	28.1	20.8	24.0

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

鹿骨小学校	60%
江戸川区（区立）	65%
東京都（公立）	69%
全国（公立）	67.2%
都との差	9ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

本校児童と江戸川区（公立）との平均正答率の差は5ポイント、東京都（公立）との差は9ポイントあった。領域別にみると全ての領域に共通することとして、「自分の考えをまとめること」が課題として考えられる。授業では、次のことに重点を置き取り組んでいく。「読むこと」の学習では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。「書くこと」の学習では、考えを整理し順序立てて自分の言葉で文章を書けるようにすること。「話すこと・聞くこと」の学習では、話し手の考えと比べながら、自分の考えをまとめること。また、図書室を積極的に利用して、日常的に本に親しみ、語彙力を高めていく。